

調べ案内

作成者: 戸田市立中央図書館/

作成日: 2016.8.9 / 改定日: 2020.9.4

なか せん どう

中山道の宿場を調べるには



〒335-0021 戸田市大字新曽1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

中山道は、五街道の一つで、江戸と京都を結ぶ江戸時代の重要な幹線でした。中山道には、日本橋から草津宿で東海道と合流するまでに67宿あり、埼玉県内には九つの宿場がありました。今回は、中山道及び戸田近郊の宿場を調べるための本を紹介します。

「中山道の宿場」を調べるためのキーワード

中山道、宿場、宿、板橋宿、蕨宿、浦和宿、本陣、旅籠、江戸時代

オンライン目録(OPAC)、インターネット及び各種データベースを検索する際の参考にしてください。

テーマの棚に行って本を探す。

●図書館の本は一冊ずつ分類記号が付いています。棚の本は分類記号の番号順に並んでいます。「中山道」に関する資料の多くは、次の分類に該当します。本を探すときの目安にしてください。

「中山道」に関する主な分類記号※これがすべてではありません。

213.4	埼玉県の歴史	213.6	東京の歴史	291.3	関東地方の地誌	291.5	中部地方の地誌
521.8	建造物	682.1	日本の交通史	709.1	日本の文化財		

中山道の宿場を調べるための本

●中山道にあった宿場を幅広く調べるときは、郷土特集架「中山道」のコーナーの本が参考になります。

【中山道に関する資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『今昔中山道独案内』 新装版	日本交通公社出版事業局	1994	T291.5	中央2階・郷土特集棚
	p.22～363「中山道六十九次」 ※p.35～36 戸田の記述あり 日本橋から草津までの宿場ごとの距離、駄賃、宿場情報及び名所旧跡を紹介しています。			
『中山道 69 次を歩く』 新版	信濃毎日新聞社	2007	T291.5	中央2階・郷土特集棚
	p.8～185 ※p.12～13「葎宿」に戸田の記述あり 中山道各宿場の現在地、次の宿場までの距離、当時の宿場の数、見所等を紹介しています。			
『中山道』	東京堂出版	1997	T521.8	中央2階・郷土特集棚
	p.19～127「第1部 吾妻路」、p.131～246「第2部 東信濃路」、 p.249～454「第3部 木曾路」、p.457～574「第4部 美濃路」、 p.577～648「第5部 近江路」 ※p.26～28 戸田の記述あり 日本橋から大津宿までの各宿場の歴史、建築、現在地等を調べられます。			
『中山道-武州・西上州・ 東信州』 (街道の日本史 17)	吉川弘文館	2001	T682.1	中央2階・郷土特集棚
	p.10～48「第1章 中山道を歩く」 ※p.13 戸田の記述あり 板橋から28番目の和田までの宿場の歴史及び名所を調べられます。			
『考証 中山道六十九次』	秋田書店	1975	T682.1	中央2階・郷土特集棚
	p.49～323 ※p.68～69 戸田の記述あり 日本橋から三条大橋まで中山道にあった69の宿場の現在と当時の様子、宿場間の距離、地名及び名所について多くの資料を用いて論じています。			
『中山道』(歴史の道調査報告書 第5集)	埼玉県教育委員会	1986	T682.1	中央2階・郷土特集棚
	p.20～44「第3章 道筋の確定と現状」 ※p.20～22 戸田の記述あり 埼玉県内に残る中山道の実態調査報告書です。中山道の概要及び宿場ごとの現状を調べられます。調査区域は、戸田市川岸の戸田渡船場跡から児玉郡上里町の神流川の渡し場跡までです。			
『歴史と文化を訪ねる日本の古道・五街道2』中山道67次 甲州街道45次	教育画劇	2020	T682.1	中央2階・郷土特集棚
	p.4～5「見送りの人もやってきた板橋」 ※p.4～5 戸田の記述あり 中山道67次と甲州街道45次を日本橋から終点まで辿りながら紹介している本です。児童書で写真や図が多く簡単な紹介文となっています。			
『埼玉・歴史の道50話』	埼玉新聞社	2005	T682.1	中央2階・郷土特集棚
	p.86～88「中山道<上>京都への山の道」 中山道の概要及び埼玉県内の宿場について短くまとまっています。			
『開設四百年中山道-武州往来-』特別展	埼玉県立博物館	2002	T682.1	中央2階・郷土特集棚
	p.15～24「賑わい」 ※p.16 戸田の記述あり 江戸時代埼玉県内にあった9宿を描いた浮世絵及び宿場の情報が簡潔にまとまっています。			

『埼玉の文化財』 第43号	埼玉県文化財保護協会	2002	T709.1	中央2階・郷土特集棚
	<p>p.2~5「埼玉の街道」 埼玉県内にある9宿の概要、騒動等を紹介しています。</p> <p>p.23~35「中山道」 ※p.23~24「戸田渡船場」 戸田渡船場、蕨宿、浦和宿、桶川宿、熊谷宿及び本庄宿の概要、現在の様子及び各市の普及活動について紹介しています。</p>			

●戸田近郊の宿場を調べるときは、市町村郷土資料コーナーの本が参考になります。

【戸田近隣市区関係資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『蕨市の歴史』2巻	吉川弘文館	1967	T213.4	中央2階・市町村棚
	<p>p.1~408「第6章 宿泊」 蕨宿には、貴人が休憩又は宿泊するための二つの本陣、庶民が利用する旅籠屋及び木賃宿がありました。それぞれの施設の概要及び宿場をめぐる問題点を調べられます。</p> <p>p.409~596「第7章 宿村財政と村方騒動」 江戸時代における蕨宿の財政及び宿場をめぐる争論を調べられます。</p>			
『蕨市史調査報告書』 第3集	蕨市	1987	T213.4	中央2階・市町村棚
	<p>p.1~4「解説」、9~110「和宮様御下向御用日記留」 ※p.9、31ほか戸田の記述あり 和宮下向に際して蕨宿における準備から当日までの様子約1年分の記録を活字翻刻したものです。戸田各村とも協力していたことが分かります。</p>			
『蕨市立歴史民俗資料館研究紀要』 第12号	蕨市立歴史民俗資料館	2015	T213.4	中央2階・市町村棚
	<p>p.17~31「近世後期蕨宿における若者の飯盛旅籠利用について」 ※p.27~28「史料10」戸田の記述あり 江戸時代後期、蕨宿における飯盛旅籠の概要及び問題点を論じています。</p>			
『さいたま市の歴史と文化を知る本』	さきたま出版会	2014	T213.4	中央2階・市町村棚
	<p>p.78~79「中山道浦和宿と大宮宿」 さいたま市にあった3番目の浦和宿及び4番目の大宮宿の概略を調べられます。</p>			
『浦和市史』 通史編 2	浦和市	1988	T213.4	中央2階・市町村棚
	<p>p.281~293「第6章第1節 街道の整備と浦和宿・大門宿—中山道と浦和宿」 江戸時代における浦和宿の規模、宿場の地割及び本陣内の様子を調べられます。</p>			
『板橋区史』 通史編 上	板橋区	1998	T213.6	中央2階・市町村棚
	<p>p.489~495「第3章第1節 宿場町の概況」、 p.495~506「第2節 宿場町の機能と運営」 板橋宿の成り立ち、宿場の様子、本陣、脇本陣等について調べられます。</p>			

『中山道と板橋宿』 特別展	板橋区教育委員会社会教育課 文化財係	1987	T213.6	中央2階・郷土特集棚
	p.5~22、p.36~40、44~46 ※p.17 戸田の史料あり 板橋宿及び加賀藩下屋敷について関連資料とともに紹介しています。			
『蕨本陣跡』	蕨市教育委員会	1973	T682.1	中央2階・郷土特集棚
	蕨市の指定文化財「蕨本陣跡」のモニュメント建設を記念して作られた本です。江戸時代から大正時代までの蕨本陣の概要及び資料を紹介しています。			

【戸田市関係資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田市史』 通史編 上	戸田市	1986	T213.4	中央2階・郷土戸田
	p.748~749「第4編第1章3節 蕨宿と助郷」 蕨宿の成立が下戸田村元蕨の地からの移住によることが分かります。成立時期は、慶長11年(1606)、同17年(1612)、同19年(1614)、元和7年(1621)の諸説あります。			
『戸田市史研究』7号	戸田市	1986	T213.4	中央2階・郷土戸田
	p.91~117「下戸田の年中行事とその地域性」 中山道及び渡船場を持つ下戸田川岸地区の年中行事から蕨宿との関係及び集落の独自性について論じています。			

★中山道に関する「調べ案内」は、他にもあります。

[「中山道の概要を調べるには」\(593KB\)](#)

[「中山道の通行者を調べるには」\(649KB\)](#)

[「中山道の道筋を調べるには」\(547KB\)](#)

[「戸田の渡しについて調べるには」\(541KB\)](#)

[「江戸時代の「記録に登場する中山道を調べるには」\(669KB\)](#)

※リンク先は、PDF ファイルです。



今回、紹介した資料は、図書館で所蔵する中山道に関する資料の一部です。目的の宿場を詳しく知りたいときは、宿場があった地域の市史(区史)に載っている可能性があります。